



TITLE:

<雑録>懷安だより

AUTHOR(S):

水野, 清一

CITATION:

水野, 清一. <雑録>懷安だより. 東洋史研究 1941, 6(5): 400-400

ISSUE DATE:

1941-11-20

URL:

<https://doi.org/10.14989/145745>

RIGHT:

支那佛教徒の地位（稻葉君山、支那社會史研究） 唐宋時代に於ける貴族對寺院の經濟的交渉に關する一考察（三島一、市村博士古稀記念東洋史論叢）

唐宋時代に於ける貴族の寺院兼併に關する一知見（同、史學雜誌） 唐宋寺院の特權化への一瞥（同、歷史學研） 宋代に於ける寺院課税に關する一考察（同、史學雜誌四四） 唐代に於ける寺院經濟（同、史學雜誌四四） 唐代に於ける寺院經濟（平凡社東洋中世史第二篇七章）

ハ、支那佛教々團としての經濟的諸關係の研究——宋の財政難と佛教（塚本、博士還曆記念） 宋朝時代の財政難と佛教（東洋史論叢） 宋代に於ける度牒問題（三島、史學雜誌） 宋の賣牒について（同、史學雜誌四〇） 宋の度牒雜考（曾部靜雄、史學雜誌四一ノ六） 道君皇帝と空名度牒政策（塚本、支那佛敎史學四ノ四）

尙ほ那波博士、佛教信仰に基きて組織せられたる中晩唐時代の社邑に就きて（史林二四） 梁戸考（支那佛教史學中晩唐時代に於ける偽濫僧に關する一根本史料の研究） 龍谷大學佛敎史學論叢等には敦煌

出土史料による唐代寺院經濟の貴重な研究が多い。

② 功德墳寺に就いては、道端良秀氏、支那に於ける寺領の一考察（嶺山學報七） 仁井田陞氏、唐宋法律文書の研究第三章施入文書第一款土地施入と文書の作成・小川貫次氏、宋代の功德墳寺に就いて（龍谷史壇二十一）等参照。

③ 内藤博士、概括的唐宋時代觀（東洋文化史研究所收） 那波博士、唐宋時代比較史論（アジア問題講座七） 隋唐五代宋社會史（支那地理歷史大系七支那社會史所收） 東洋文化史大系、宋元時代の部の夫々の所・曾我部靜雄氏、北宋政治史（支那地理歷史大系五支那政治史下所收） 佐伯富氏、王安石（支那歷史地理叢書等參照）

④ 板野長ハ氏「支那佛教史學」（雜誌に對する批評紹介） 歷史學研究七ノ七、九四頁

（善峰靈雄）

懷安だより

曇曜五窟と取組んだけれども、なかなか終らず、懷安の漢代墳墓調査の先發として岡崎君と二人出て來ました。夕ぐれ渾河の流れを遡つて萬安もとの紫溝堡に着く。仲々賑やかな町で降りる客が相當にある。昨年と變つたことは、縣公署が此處にできたためか、日本人の姿を見ることが。町もにぎやか、買物も一とほりまにあふ。たゞ西瓜をあちらもこちら山のように積んでゐるのは意外であつた。果物も多い。葡萄、沙果等々。面白いのは夜になると汽燈をつける。之は上田參事官の創意かとも思ふが、辻々に汽燈がつく。その間にランプの灯が點々として人々がざわめいてゐる。上田氏得意の明朗政治かも知れぬ。萬安の鎮公所も赤煉瓦の新築。縣公署はもとの師範學校を改築中。しかしとにかく一番活潑に縣政が運用されてゐるのを見る。明日から下調べで少し歩くつもりです。（九月二十一日附森宛書信）